

Webベースの医療情報システムの要求開発

開発者:野村 直之 共同開発者:大場 寧子

☆「ペア要求開発」、「アナロジー駆動要求開発」を創始、駆使し要求を獲得

◆開発の背景、目的

- ・既存の様々な医療情報システム(特に中小規模医院向け)では、複雑な診療報酬算定ルールや慣習も相俟って紙・FD出力と再入力がなくならず、オンライン請求のスケジュールは決まっているのに情報化によるサービス改善が遅々と進展せず。
- ・現場の最新の潜在要求が拾い上げられていない現状を改善し、最終的にはWeb2.0的に、ITサービス運用中にユーザと協働で改良していける新しい要求駆動型の開発手法が潜在的に期待されていた。

◆実現した主要な機能と特徴(U:User役, I:IT開発者役)

- ・「ペア要求開発」: 実務経験豊富なユーザと開発者とでペア。このアジャイルな要求開発で短いサイクルで、抽象要求(U)→仮説形成(U&I)→制約適用&機能設計(U&I)→プロトタイピング(I)→評価(U)→具体要求(U)→要求のクロス評価(I)→…のスパイラルを高速に回して成果(要求仕様, 機能仕様)を出した。
- ・“Requirements by Analogy” (アナロジー駆動要求開発: 学会研究会発表1件)
 - － ITILのサービス・サポート/デリバリのモデルのアナロジー (医療サービス層&IT層)
 - － “ネットde会計”など別業界の類似サービスのアナロジー

市場、ユーザーにもたらす効果； ユーザー様へのメッセージ

「ペア要求開発」、「アナロジー駆動要求開発」を創造しノウハウを蓄積した結果、

◆市場あるいはユーザーにもたらす効果

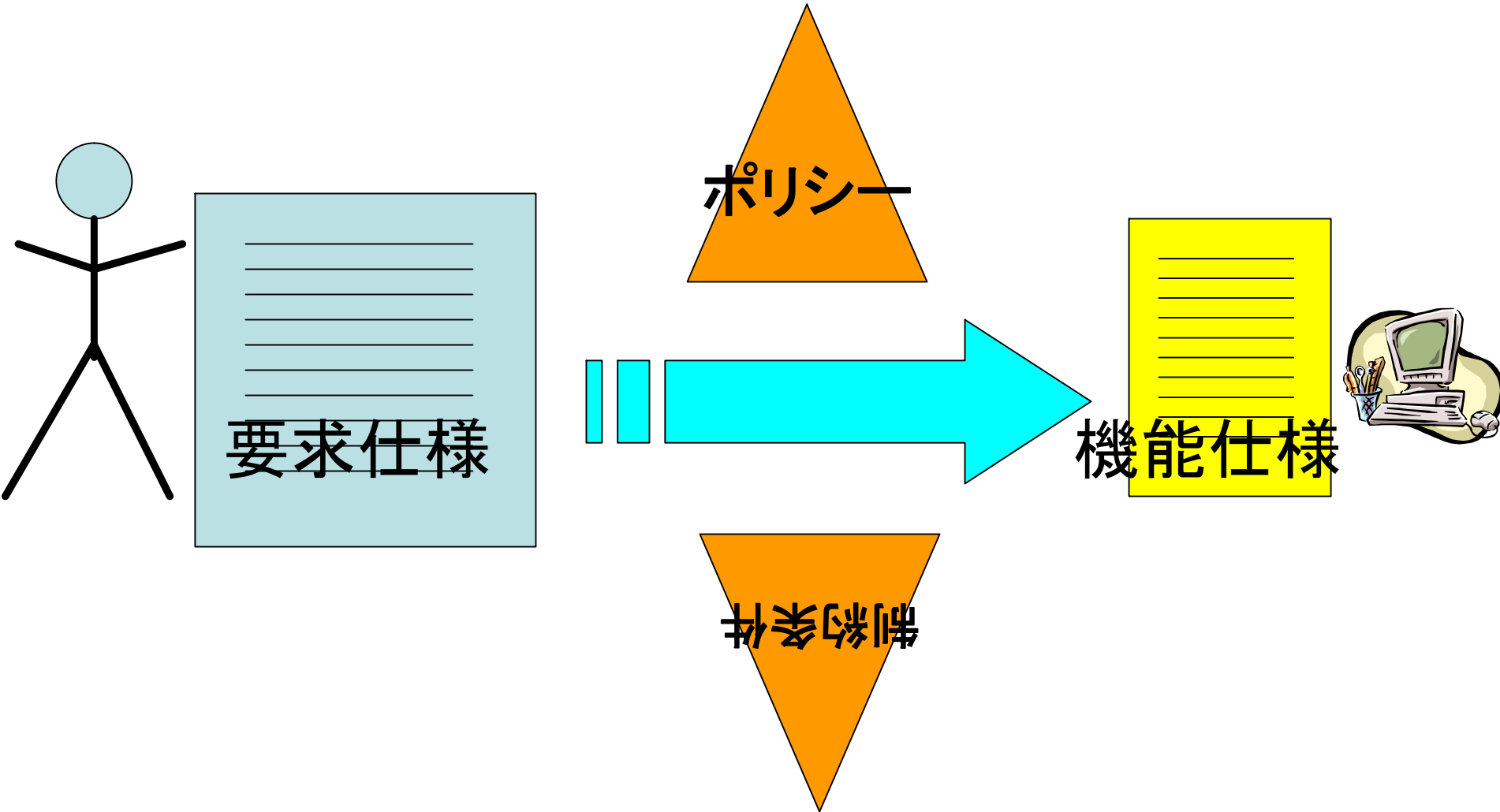
- ・実現形はわからないが潜在的な要求、欲求を沢山もったユーザが要求開発の主役として参加できる手法を確立。真に使いやすい、適度に高機能のソフトウェアやサービスを素早く開発できる可能性が高まりました。
- ・従来は、らっきょうの皮むき、あるいは蛸壺のように専門、個別業務に入り込み、隣の人/部門には理解できないような仕様にすぐに陥りがち。それが多種多様な業務知識の提供、活用のプロセスに共通する要求をあぶり出す“Requirements by Analogy”によって、異業種横断のソフト開発が促進され、使いやすい設計思想、UI等が業界の壁を越えて積極的に浸透するようになります。

◆市場あるいはユーザーに向けたメッセージ

- ・“サービス”は本来、受け手と提供者が共同で作り上げるもの。
お互い遠慮せず意見をぶつけあってアイデアを出す「ペア要求開発」を取り入れましょう。
- ・他業界の一見別の工夫もうまく真似して発明・発見を加速しましょう。

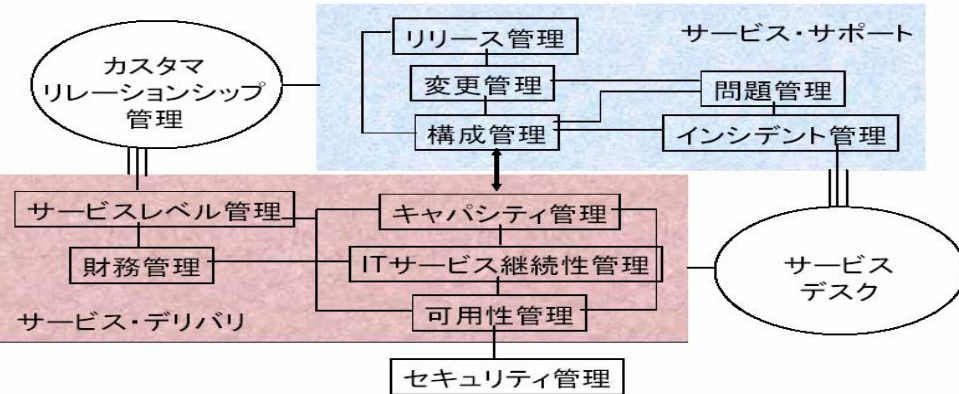
参考：メタ要求開発

～要求から仕様への知識管理の流れをどう作るかを設計



参考：“Requirements by Analogy” ～ITIL活用の事例

ITIL:



©2004 #SMF Japan. All rights reserved.

itSMF Japan年次大会の解説資料より引用

- 医療サービス・マネジメント
 - Requirements by Analogy
 - support & delivery; incident!の雛形、参考モデル
 - 現状の医療SMに欠けている管理は?
 - どんな評価指標KPIを系統的に導入すべき?
 - マネッジド・サービス・デスクやCMDBは?
- 医療現場の情報システム活用（顧客は医療機関の職員）

医療現場でITILを活用する2つのレイヤー